

平成28年度 業務実績報告書

平成29年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 <p>1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6 評価及び情報公開 :評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	<ol style="list-style-type: none"> 1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員
の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松本 次好	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 文部省入省 平成18年 4月 九州大学総務部長 平成20年 4月 島根大学理事・副学長・事務局長 平成24年 2月 福岡教育大学理事・副学長 平成25年 2月 環太平洋大学事務局長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	吉村 静男	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 福岡県採用 平成15年 4月 漁政課長 平成23年 4月 人事委員会次長 平成25年 4月 水資源対策長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻生 泰(前任)	平成26年4月1日 ～平成28年5月30日	昭和54年12月 麻生セメント(株)取締役社長 昭和56年 4月 (社)経済団体連合会理事 昭和59年 4月 (社)セメント協会副会長 平成 2年 4月 (社)経済団体連合会評議員 平成 8年12月 飯塚商工会議所会頭 平成11年 1月 慶應義塾監事 平成13年 8月 新・麻生セメント(株)代表取締役社長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年 6月 (株)麻生 代表取締役会長 平成25年 6月 (一社)九州経済連合会会長
理事(学外)	古野 金廣(後任)	平成28年6月1日 ～平成30年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 (株)麻生代表取締役専務取締役 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事

理事(学外)	芳賀 晟 壽	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長
理事(学内)	石崎 龍 二	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 5年 3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成 6年 4月 福岡県立大学助手 平成12年 4月 福岡県立大学助教授 平成25年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松浦 賢 長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	古本 栄 一	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅田 久 和	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和60年 4月 麻生セメント入社 平成 7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年 6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年 7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
教員数	常勤(正規)	110人	110人	110人	102人	104人	108人	
	内訳	教授	28人	26人	28人	23人	23人	21人
		准教授	28人	34人	32人	31人	32人	34人
		講師	25人	20人	20人	22人	23人	24人
		助教	15人	17人	19人	21人	21人	21人
		助手	14人	13人	11人	5人	5人	8人
非常勤講師	112人	127人	130人	112人	146人	134人		
合計		222人	237人	240人	214人	250人	242人	

教員数増減の主な理由

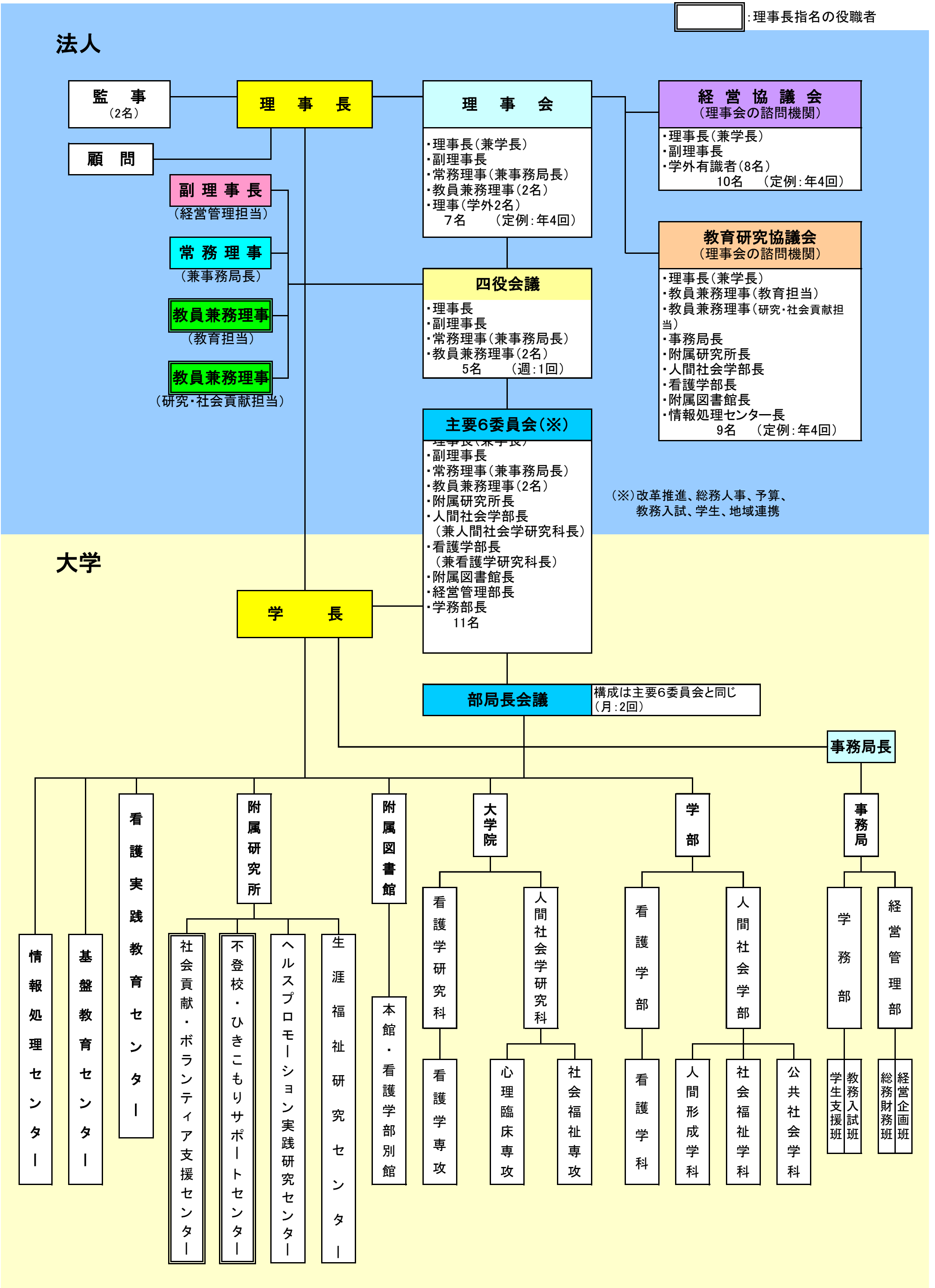
平成28年度に非常勤講師数が減少しているのは、本学で新任教員を雇用したこと及び育休者が復帰したこと等による。

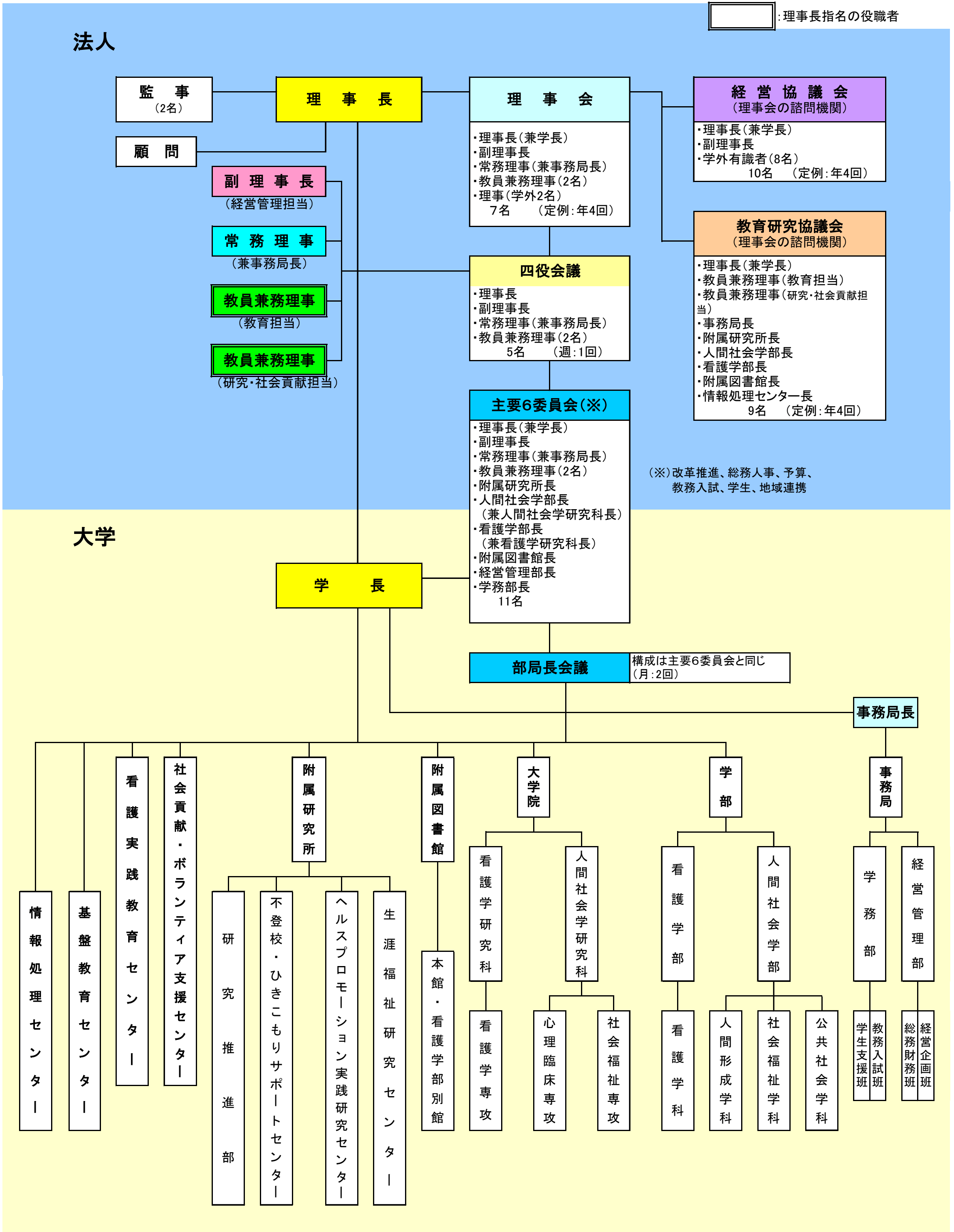
(3)職員			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人		
	正規職員	県派遣	20人	18人	15人	13人	13人	14人		
		プロパー	0人	2人	5人	7人	7人	7人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		計	20人	20人	20人	20人	20人	21人		
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		8人	10人	11人	11人	13人	15人			
	合計	29人	31人	32人	32人	34人	37人			
職員数増減の主な理由										
平成28年度に職員数が増加しているのは、代替要員補充に伴う増員等による。										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する 学部・大学 院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人間社会学部	計	630名	706名	112%	118	116	115	113	112	112
内訳	人間社会学部	600名	681名	114%	118	117	116	115	112	114
	公共社会学科	200名	222名	111%	118	118	119	116	113	111
	社会福祉学科	200名	232名	116%	116	117	116	118	113	116
	人間形成学科	200名	227名	114%	120	116	115	110	112	114
	大学院 人間社会学研究科	30名	25名	83%	120	90	90	90	97	83
看護学部	計	384名	378名	98%	99	100	102	100	101	98
内訳	看護学部	360名	354名	98%	101	99	102	101	101	98
	看護学科	360名	354名	98%	101	99	102	101	101	98
	大学院 看護学研究科	24名	24名	100%	79	108	104	92	100	100
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田 洋三郎	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松本 次好	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉 一明	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	川上 鉄夫	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原 守	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会(親の会) 顧問
	佐藤 博英	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋藤 明	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	前 独立行政法人大学入試センター 監事
	佐渡 文夫	平成28年4月1日～平成30年3月31日	田川商工会議所 会頭
	二場 公人	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	田川市長
	吉村 恭幸	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	(一社)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	理事長
学部長	赤司 千波	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	看護学部長兼看護学学術研究科長
	田中 哲也	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
学内組織の長	石崎 龍二	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	教員兼務理事
	永嶋 由理子	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	附属研究所長
	郝 暁卿	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	情報センター長
	福田 恭介	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	附属図書館長
	松浦 賢長	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	教員兼務理事
	吉村 静男	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	事務局長

公立大学法人福岡県立大学組織図

平成28年5月1日現在





全体評価

法人自己評価

I 全体

【平成28年度】

公立大学法人である本学は、福祉系総合大学として保健・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。

学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、PDCAサイクルによる改善に取り組みました。特に、学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。前年度から導入した全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」「キャリア形成支援プログラム」に加え、新たに「保健福祉情報教育プログラム」を導入しました。全学横断型教育プログラムでは、教員が学部・学科・コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の学部教育の大きな特徴の一つとなりました。

入口管理は、質の高い学生確保のため、入試広報活動についてスマートフォン対応をはじめとするホームページの見直し・改善を積極的に行いました。また、オープンキャンパス（2回）、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会、高校生向けサマーセミナー等を全学的に教職員協働で推進しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部の実質倍率は3.0倍となりました。

出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、まず国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は95.2%、保健師100%、社会福祉士62.7%、精神保健福祉士100%と全国平均を上回る合格率を達成することができました。また、就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員を対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図った結果、就職率は99.1%と高い水準を達成しました。

教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部連携による科目を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、115コースを開講し、学生の利用率は86.5%となりました。授業評価アンケートの内容を見直し、改訂版による評価を実施しました。また、本学の教育課題を分科会形式で議論するFDセミナーを開催し、教員のFDに対する意識と教育の質の向上に取り組みました。FD研修会等への教員参加率は89.3%となり、前年度を上回りました。学生の成績評価では引き続きGPA制度を活用し、GPA低得点の学生全員を面接指導する一方、GPA高得点の学生を学位記・卒業証書授与式で表彰しました。

研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は4,461万円、平成28年度科学研究費応募率は95.9%となり、目標を上回る水準を維持しました。また、附属研究所調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。査読付き論文数は47件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。

研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地（知）の拠点作りを目指す大学としての取り組み（COC）、及び交流協定を締結している韓国・中国の大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究助成制度や大学院生の研究助成及び学会発表支援制度の実施等により、研究を積極的に推進してきました。

地域貢献における各種活動は附属研究所を中心に活発に行うことができました。

国際交流は、南京師範大学、大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大、コンケン大、威徳大に、新たな協定校である吉林大学珠海学院を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は22名となりました。また、短期研修制度（学生派遣）を威徳大・大邱韓医大において実施しました。短期研修（大邱韓医大）の受入れも実施することができました。

総合的には、法人化後の第2期中期計画の5年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。

Ⅱ 中期目標項目別

1 教育

【平成28年度】

1 教養教育の充実

教養科目の新たなカテゴリーを決定し、社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるため「社会人基礎力演習」を平成29年度前期から、グローバル化対応のため「グローバル社会論」を平成29年度後期から新規開設しました。

また、スキルアップ・ゼミとして「スタートダッシュのための就活塾」と「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」の2コースを開設しました。教養演習に関しては担当者向けのワークショップを行い、前年度担当者との相談体制を整えるとともに、教養演習テキストについては、学生編集委員による改訂・編集作業を行いました。

2 専門教育の充実

①人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。また、看護学部では、平成24年度入学生から適用した新カリキュラムの前期・後期科目について学生を対象とした調査を行い、開講時期の変更(2科目)と選択科目の見直し(1科目)を行いました。

②東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」は、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えました。

③実習教育の充実として、人間社会学部では教職免許取得希望者に対する学校インターンシップ(12回)を実施しました。また、看護学部では実習担当教員・指導者研修会と実習指導者連絡会議を開催し、実習指導体制の充実を図りました。

④両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を後期に開講しました。また、「不登校・ひきこもり援助論」、「子供学習支援論」を開設しました。

⑤専門教育の充実については、人間社会学研究科では、「子ども教育専攻」の開設(平成29年度)に至りました。看護学研究科では専門看護師コースの見直しを行いました。

⑥他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では実践型インターンシップとして他大学の学生と取り組むプログラムを実施しました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を基にした連携事業(大学間連携共同教育推進事業)において、8大学の単位互換・相互受講の制度を推進しました。

3 教育効果を検証するシステムの構築

①学生による授業評価アンケートは内容を見直した改訂版を用いて実施しました。また、学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。

②アウトカム評価は、就職先アンケートと卒業生アンケートを各学部にて実施し、それらの集計・分析等を行いました。また、国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。

4 教員の教育能力の向上

分科会形式のFDセミナーを開催し、本学の教育課題(授業評価アンケート、学生生活時間と単位の実質化、授業参観導入等)について議論するとともに、授業参観および公開授業を実施しました。また、大学院研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。さらに、他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部(社会福祉コース)では九州ブロックの合同研修会への参加、看護学部では臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。

5 優秀な学生の確保

アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するため、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試で活用することを決定するとともに、高大連携に関する情報交換会と高校生向けサマーセミナーを開催しました。また、大学院に関してはオープンキャンパスで入試に関する相談コーナーを設けました。

広報活動については、「入試広報手許資料」を改訂し、高校訪問における説明内容の標準化を行うとともに、スマートフォン用の大学公式サイト(入試情報)を充実させました。

6 学生支援の充実

プレ・インターンシップ、中長期・実践型インターンシップを充実しました。また、大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。

7 学習環境の充実

IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。また、学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入しました。

8 人間社会学部の改革

全学横断型教育プログラムとして「保健福祉情報教育プログラム」を開設しました。「国際交流プログラム」においては、4年次卒業ルート of 学生が1名留学しました。「援助力養成プログラム」においては、カリキュラム充実の一環として新たな科目「子供学習支援論」を開設しました。

実施事項別評価は、Aは1項目、Bは23項目とします。

2 研究

【平成28年度】

1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所内に新たに研究推進部を設置しました。「地域教育課題」に関する研究と「医療福祉情報システム」に関する研究の2課題を重点研究として推進しました。また、地域貢献と国際交流推進のため「地域・国際コーディネーター(常勤)」を配置しました。学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は3件、招聘件数は2件となりました。
- ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が95.9%、科研費獲得件数35件、金額が4,461万円となり、目標を上回りました。
- ③ 研究倫理の徹底については、厚生労働科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を整備し、外部有識者を入れた審査を行いました。若手研究者を対象としたセミナーも開催しました。また、公私立大学動物実験施設協議会による動物実験施設の外部検証を受審しました。

実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。

3 社会貢献

【平成28年度】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、まず中国の吉林大学珠海学院と交流協定を締結しました。協定校である大邱韓医大学、三育大学、威徳大学、北京中医薬大学、南京師範大学を国際交流推進部会員が訪問し、文化・学術交流推進について議論しました。また、後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。伊田小学校の英語授業に留学生が講師として参加しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が25名交流し、文化交流プログラムを4回実施しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました(学生10名参加)。また、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました(10名受入)。受入留学生数は22名でした。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、附属研究所の改組に伴い、今後の保存のあり方について見直しと整理を行いました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業(1件)が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学では5つの講座を開きました。

3 地域に貢献する大学としての認知度アップについては、以下の取組みを行いました。

- ① 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。また、不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行い、延べ2,571人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ1,417人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は66.7%と高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が174件、活動学生数が延べ477人となりました。また、福岡県重点課題授業「土曜の風」(地域学習支援事業)を開始し、延べ1,214回の学生派遣を行いました。
- ② 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組みを行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。ペアレントトレーニング・スキルアップ講座を、直方市との共催事業として実施しました。また、ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせ60人の卒業生が参加しました。
- ③ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターが南京師範大学の学生6名の研修受入れを行いました。また、附属研究所公開講座を3コース実施しました。
- ④ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。また、地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。リカレント研修会の参加人数は249人、認定看護師コースの入学試験倍率は2.2倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、Aは4項目、Bは7項目とします。

4 業務運営

【平成28年度】

1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。

- ① 事務局機能の強化については、公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加しました。また、学内FD・SD研修「大学改革セミナー」を実施しました。データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学事務局長会議、事務局部長会議を開催しました。
- ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、ベストティーチャー賞を1名選定しました。
- ③ 教員の個人業績評価については、平成27年度分の個人業績評価を実施しました。
- ④ リスクマネジメント体制の整備については、平成28年2月に制定した「危機管理基本マニュアル」の周知・徹底を図りました。

実施事項別評価は、Bを4項目とします。

5 財務

【平成28年度】

1 外部研究資金等の積極的確保については、外部研究資金公募情報をホームページに掲載し、全教員にメールを発信するとともに、科研費応募率向上のための研修会を実施しました。また、大学広報誌により県大基金への寄付金募集等を行うとともに、自主財源基金設立に対する検討を行いました。

2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。

- ① 業務改善による経費の削減については、急を要する物品以外は消耗品の集中発注システムを活用し、一括発注に努めました。また、外灯(駐車場、通路66基)をLED照明化するとともに、屋内蛍光灯が故障した際随時LED電灯への切替えを行いました。
- ② 人件費の抑制については、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員採用に努めました。また、超過勤務縮減対策の一環として週休日の振替を徹底しました。

実施事項別評価は、Bを3項目とします。

6 評価及び情報公開

【平成28年度】

1 自己評価の見直しについては、県公立大学法人評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知するとともに、教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を行い、ホームページに掲載しました。また、大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審した結果、本学は「大学評価基準を満たしている。」と認定されました。

2 県大ブランド力の強化については、ホームページをリニューアルして見やすくし、またスマートフォンでの閲覧を可能とするとともに、ホームページの掲載情報の充実を図りました。あわせてフェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図りました。また、本学の教育研究情報やイベント情報等について積極的に新聞社等へ情報提供しました。

実施事項別評価は、Bを2項目とします。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

【平成28年度】

・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、「専門職連携入門」「不登校・ひきこもり援助論」「海外語学演習・実習」を引き続き開講するとともに、新たに「子供学習支援論」を開講しました。

・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組みを進め、また、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組みでは、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。さらに海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究3件、教員交流数25名の成果を得ました。

・事務局における専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員等を公立大学協会主催の事務局員対象研修会に参加させました(3名)。

・地域に貢献する大学としての認知度向上については、全国の関係団体等から不登校・ひきこもりサポートセンターに視察訪問の申し込みがあり、それを受け入れました。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部との連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
----------------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。	1 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1-1 【平成28年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基づいて既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目の実施に向けて準備をする。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。 ○既スキルアップ・ゼミに関連した新設科目の開設に伴い、「スキルアップ・ゼミ」コースを精選して実施する。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ2コースの開設 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1	【平成28年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○既存科目の見直しについては、全学共通教養科目の削減・編成を提案し、教務・共通教育部会、各学部の教授会で承認された。また、単位修得における教養科目の区分について統合・再編を検討した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目については、本年度入学生より対象となる科目「社会人基礎力演習」を新規開設した(平成29年度前期から開講)。 ○全学横断型教育プログラム関連科目の実施に関しては、本年度、全学横断型教育プログラムの保健福祉情報教育プログラムに必要な科目「数学概論」、「情報処理応用演習」を新規開設した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースについては、以下の2コースを開設し、実施した。3年生対象の「スタートダッシュのための就活塾」(12月、2月、3月の全3回、受講者48名) 英語力アップを目指す全学年対象の「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」(11月、12月で全4回、受講者12名) ○目標実績 ・スキルアップゼミ2コース開設 ・学生の成績:教養科目全てを対象としてC以上92.3%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		1

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
※1 教養教育の充実の続き	<p>2【教養演習・総合科目の改善】 <両学部の教養演習、総合科目></p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善</p> <p>②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・コリア語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> :全学の教養演習及び総合科目において C以上80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 :2科目増設</p>	2-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成27年度教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目を実施に向けて準備をする。</p> <p><語学教育の充実> ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施する。 ○「教養演習英語クラス」を継続して開講する。 ○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統工芸品、DVD等をコリア語教育、中国語教育に積極的に活用する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> 全学の教養演習及び総合科目において C以上80%</p>	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実に関しては、昨年度までの経験を踏まえ、本年度の担当者に向けてワークショップを行った。また本年度の担当者からの相談に対応する体制をとった。 ○教養テキストの改善、共通テキストの大幅な見直し案の作成については、学生編集委員によって昨年度のテキストの校正作業を行った。また、挿絵(イラスト)を新たに作成し、新年度のテキストの挿絵を新しいものに差し替えた。 ○グローバル化へ対応するための新科目については、本年度入学生より対象となる科目「グローバル社会論」を新規開設した(平成29年度後期から開講)。</p> <p><語学教育の充実> ○外部テストG-TELPを4月に各学部・学科の一年生に、12月に一年生(2回目)と二年生に実施した。 ○「教養演習英語クラス」の開講を継続した。 ○異文化理解のために購入した資料は、コリア語、中国語の両教育において及び社会と文化等の他の科目において積極的に活用した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> 全学の教養演習及び総合科目においてC以上97.1%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		2

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 専門教育の充実	1 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 ・全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上80%	1-1 【平成28年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・科目間の履修の順序や関係を学生に分かりやすく示し、地域社会分野と国際共生分野、それぞれ充実を図る。 ・社会調査実習、演習において学生に研究課題の設定、調査、分析、考察の一連の過程を経験させる。 ＜社会福祉学科＞ ・前年度に開始した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実について、1年生からのカリキュラムに反映させ、実施する。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム(基幹科目、コース展開科目、関連科目)の実施とともに、在学生への移行措置を実施・検証する。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの完成年度を受け、カリキュラムの評価と検討を行う。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において：C以上 80%	1	【平成28年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・地域社会、国際共生分野の履修モデルの変更を周知し、新カリキュラム移行にともなう資格取得指導を行った。 ・「社会調査実習」担当教員間において課題設定、調査・分析法等の教育内容と到達目標、中間報告会等の日程調整の確認を行った。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の資格関係・専門科目の改善・充実について、1年生からのカリキュラムに反映させ、実施した。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム実施に伴い、移行期間の授業展開を学生に周知するとともに、廃止科目の未・再履修者への対応を検討・確認した。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行った。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの完成年度を受け、新カリキュラムに対する調査を行い、教務部会にてカリキュラムの見直しを行った。 2科目について開講時期の変更を行い、選択科目の見直し検討を行った。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーション(1年生、3年生、4年生)で強化を図った。 ・倫理に関する講義を前期に実施した(「基礎看護学概論」)。後期科目の生態機能看護学Ⅲ(選択)において、「薬害被害者の講義：陣痛促進剤事故について知ろう～実態と問題点～」を行い、112名が参加した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数：全専門科目について必要な見直しを行った。 ・学生の成績 専門教育科目において：C以上 89.2%(人社92.4%、看護84.6%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。 さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。</p>	<p>2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p>	<p>2-1【平成28年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>○東洋医療と西洋医療の融合領域を専門とする非常勤講師(国内)による授業「東洋看護学演習」を前期に開講した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績：教育プログラム C以上93.8%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		4

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	<p>3-1【平成28年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせの充実(臨床との共同会議開催) ・学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行う ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学部における実習指導の充実 ・社会調査実習の配当年次変更後の授業実施体制の検討、教育実習の事前指導の充実。 ○社会福祉学部における実習指導の充実 ・各実習間の指導内容の標準化を図るための取り組みを行う。 ○人間形成学部における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う。</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ：学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入 1回/年 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議は3月9日に開催した。 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行った。 ・教員・指導者研修会を9月15日に開催した。 ・臨床との共同会議開催は各領域で実施中。全体は3月9日に実施した。 ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討については、学びのカルテによる集計及び分析を終了してまとめ、本学紀要に投稿した。</p> <p>＜人間社会学部＞ ○3学科の学生に関連する教育実習については、教職を希望している2, 3年生に対して学校へのインターン実習(12回)を奨励した。 ○公共社会学部における実習指導の充実 ・教育実習について、実施予定者が円滑に実習に取り組めるよう、全員に複数回に及ぶ模擬授業を課して、実践的内容を事前指導に盛り込んだ。 ○社会福祉学部における実習指導の充実 ・各実習における指導内容の連関性を高めるため、実習日誌等の記録作成方法について他大学での実施状況を把握した。担当者間で今後の取組について検討を行い、記録様式の修正・変更を行った。また、各実習において開催している実習報告会等の目的と方法について情報共有し、指導内容を見直した。 ○人間形成学部における実習指導の充実 ・幼稚園教育実習、保育所実習、施設実習ごとに各分野の実務経験がある教員を新たに採用し、配置し、連携を確認した。事前事後指導においては、現場での指導の観点から、指導の方針及び日誌の改訂について検討し、指導内容の統一を図り、日誌は刷新した。</p> <p>○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 1回 ：学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入 1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目4科目 100% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上 96.1%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		5

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	4-1【平成28年度計画】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」として平成27年度から単位化した「専門職連携入門」を充実を図りながら実施 ○「全学横断型科目」(「不登校・ひきこもり援助論」「子供学習支援論」)を充実を図りながら実施 (※科目の区分目「両学部で学ぶ専門的連携科目」は平成28年度から「全学横断型科目」へ変更、「社会貢献論」「社会貢献論演習」「不登校・ひきこもり援助応用演習」は平成28年度入学生から廃止し、「問題解決演習(2年次開講)」「子供学習支援論(1年次開講)」を新設) ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献フォーラムの実施 ○公開卒論発表会の実施 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	1	【平成28年度の実施状況】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○「専門職連携入門(全8回)」を後期に開講した(受講者数45名)。 ○「全学横断型科目」の「不登校・ひきこもり援助論」(受講生220名)、「子供学習支援論」(受講者97名)を開講した。 ○「海外語学演習」(受講生16名)を開講、「海外語学実習」(16名参加)を実施した。 ○社会貢献フォーラムを平成28年度不登校・ひきこもり支援フォーラム内で開催した。 学生4名がボランティア活動をポスター発表した(参加者53名)。 ○人間社会学部の卒業論文発表会を開催した(学外参加者39名)。 看護学部の卒業研究発表会を開催した(学外参加者11名)。 ○目標実績 ・学生の成績:C以上 96.1%(人社99.7%、看護94.5%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		6

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率 (入学者数)／(入学定員) :100%	5-1【平成28年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会による枠内で、および国家資格化の動向を踏まえながら、学生のニーズに合わせて、新設科目等を検討する。 社会福祉専攻 ・高度専門職業人の育成に向け、新カリキュラムの実施を開始する。また、その内容について確認していく。 子ども教育専攻(仮称) ・平成29年度開設に向けて必要な手続き等を行う。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 子ども教育専攻(仮称) :100%	1	【平成28年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直しについて検討した。 ＜心理臨床専攻＞ ・公認心理師(国家資格)カリキュラムの公示が来年度となったので、新科目等はそれを待って来年度検討することを決定した。 ＜社会福祉専攻＞ ・新設科目「社会福祉研究法」「量的研究法」「質的研究法」を開講し、教員間で授業内容を確認した。 ＜子ども教育専攻＞ ・平成28年9月に届出を行い、平成29年度開設した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻 : 50% 心理臨床専攻 :166% 子ども教育専攻 : 33%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻の土日開講について、卒業生を含めた施設従事者等への周知に努める。 また子ども教育専攻については、開設初年度であるため、今後さらに周知に努める。		7

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/ (入学定員):100%</p>	<p>6-1【平成28年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、継続して情報収集及び教育の充実に向けた整備を行う。 ○現場看護職の相互交流による高度実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関する検討 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の研究支援を行う ・CNSコース3コースの修了後の専門看護師資格習得までの支援体制を整備する</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/ (入学定員):100%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・がん看護専門看護師コースは26単位課程の認可が切れる平成28年度をもって終了した。 ○小児看護学、精神看護学、成人看護学、地域看護学の分野において、現場看護職の相互交流による高度実践能力の育成を図る検討会等を開催した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議の全体研修会と最終評価会に参加した。 ・平成29年度以降のがんプロ参加については、がん看護専門看護師コース終了に伴って不参加とした。 ○修士課程の修了生の支援 ・精神看護学、地域看護学の研究コース修了者の研究支援を行った。 ・精神看護専門看護師コース、がん看護専門看護師コース修了者の研究支援を行った</p> <p>○目標実績 ・充足率(入学者数9名/入学定員12名):75%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 充足率が目標に達していない(75%)ことを受け、受験生向けの研究科パンフレットを平成29年度に刷新することとした。</p>	No.1 「②入学者 選抜試験 (大学院)」	8

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>7【他大学との連携による教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> <p>①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。</p> <p>②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 <人間社会学部> ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 <看護学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	<p>7-1【平成28年度計画】</p> <p>【他大学との連携による教育の充実】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討する。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページを更新し、ニュースレターを発行する。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施する。 ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を実施する。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での講義の単位互換または相互受講を実施する。 ・特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるよう収録、コンテンツ化する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施する。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を実施する。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践型インターンシップとして他大学の学生と一緒に取り組む連携プログラムを実施した(6月~12月末、本学学生2名、北九州市立大学学生1名)。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を2回開催した。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会を4回開催した。 ・ホームページは随時更新し、ニュースレターは9月に8号を発行した。 ・外部評価委員会による事業評価を実施した。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・キャリア像確立講義のオンデマンド配信は11名が登録し、7名が単位を取得した。 ・ナーシングキャリアカフェを福岡と沖縄で合わせて19回開催した。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を6月に実施した。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・連携大学での単位互換・相互受講の実施について、前期は連携校の学生延べ20名、後期は延べ15名が参加した。 ・特徴科目における授業の一部のオンデマンド配信に関しては、性教育学(福岡県立大学)、不登校・ひきこもり援助論(福岡県立大学)、国際看護学Ⅰ(聖マリア学院大学)の3科目をコンテンツ化した。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・国際協力看護領域における合同短期研修を実施した。災害看護領域における合同短期研修を実施した。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修は、受入先との日程調整が整わず中止となった。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数:2科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議:対面会議2回/年 テレビ会議5回/年 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規付加価値コースにおける合同短期研修は、受入先との日程調整が整わず中止となった。 		9

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 <人間社会学部><看護学部> ①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1-1【平成28年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 <人間社会学部><看護学部> ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1	【平成28年度の実施状況】 <人間社会学部><看護学部> ○学生による授業評価を実施した。 ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施した。また、授業評価アンケートの内容を見直し、実施した。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催した。 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施した。 ○目標実績 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催:1回 ・学生による授業評価の回収率:86.1%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		10

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 教育効果を検証するシステムの構築の続き	<p>2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。</p> <p>○数値目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	<p>2-1【平成28年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。</p> <p>＜人間社会学部＞ ○卒業生の就職先からの評価を把握するため、就職先アンケートを実施する。 ○卒業生の実態を把握するため、卒業生アンケートを実施する。</p> <p>＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行う。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。</p> <p>○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価に用いるアンケート内容を見直した上で、就職先アンケートを実施し、集計・分析を行った。(対象：H26.4月入職の事業所、送付数174、回答数75、回収率43.1%)</p> <p>＜人間社会学部＞ ○卒業生アンケートの項目の見直しを進路生活支援部会で行い、アンケートを実施し、集計・分析を行った。(対象：H27年度卒業生、送付数137、回答数20、回収率14.6%)</p> <p>＜看護学部＞ ○病院就職説明会で就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した。(対象：説明会参加病院、配付数59、回答数54、回収率92%) ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査を実施し、集計・分析を行った。(対象：H27年度卒業生、送付数56、回答数11、回収率19.6%) ○病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。看護師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。保健師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。</p> <p>○目標実績 ・アンケート内容の見直し：1回 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：99.1% ・国家試験合格率 看護師：95.2% 保健師：100% 社会福祉士：62.7% 精神保健福祉士：100% (助産師については課程の大学院移行のため28年度の受験者なし)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 ・社会福祉士の国家試験合格率 平成29年度は、国家試験対策に関するガイダンスを早期に行い、学習会・対策授業では、前期にゼミ等小グループでの学習を促し、学科独自の模擬試験を導入するなどの国家試験に向けた学習支援を強化する予定である。</p>	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」	11

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育能力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 ：教員間の授業参観を実施 年1回以上	1-1【平成28年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観の実施および課題の抽出 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価の実施・修正 ○達成目標 ・FDセミナー等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞ ＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー「Eラーニングの活用について」2回(68名)、「大学改革セミナー」1回(48名)、「授業評価アンケートの活用方法・ベストティーチャーの選考方法」1回(32名)を計4回実施した。Eラーニングセミナーは初心者向けと実践者向けを実施し、初心者の方の基本的な操作技術の習得、利用者の利用しづらさの軽減につながった。 ○教員間の授業参観は4回実施された。他者の授業を見ることで自身の講義プランニングや教授方法の参考になったとの意見が聞かれた。授業参観制度について事務的な手続きが十分周知されていない現状があり、報告書の未提出もあった為、周知を図っていく必要がある。 ○公開授業を実施した。教育関係者を含む外部からの参加もあり、地域に開かれた公開授業が実施できた。 ○2月に実施されたFDセミナーにおいて、教員が学生からの授業評価を受け、自己評価を行うとともに改善策を考え学生に還元するための方法をFDセミナーで話し合った。授業評価アンケートの活用方法について学生の意見を聞くために学生座談会を実施した。この結果を踏まえ、授業自己評価・改善プランを策定した。 ○目標実績 ・FDセミナー等教員参加率 89.3%(92/103名参加、大学院・学部FD参加者) ・両学部常勤教員の全教科におけるC判定以上の割合：90.9% ・教員間の授業参観：4回/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 FDセミナー等教員参加率は89.3%と、わずかに目標を達成できなかった。今後は、3か月に1度、部局長にセミナー参加状況を報告し、参加勧奨の機会を増やすこととした。	No.10 「FD」	12

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 教員の教育能力の向上の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】の続き	1-2	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教員のFD活動の推進】 <人間社会学研究科><看護学研究科></p> <p>○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催 □学外の講師によるFDセミナーの開催 □学外で開催されるFDセミナーへの参加</p> <p>・大学院生へのアンケート実施 カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催</p> <p>○達成目標 □大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95% □大学院生の満足度:「中」以上:75%</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	B		13

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数：年に1回以上	2-1【平成28年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討・実施 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施（継続） ・教員と臨床教授等の合同講習会実施 ・ブラッシュアップのためのセミナー開催 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施する。 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施（1件以上／年）（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施（1回以上／年） ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討・実施 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、長崎国際大学で開催された九州ブロック研究大会の社会福祉コースの教員3名は参加した。 総会で、本学は次年度から運営委員校を担当することになった。 ○ブラッシュアップセミナーを、「ドイツの児童福祉と専門職養成教育について」をテーマに、ドイツから講師を招き実施した。参加者11名。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行った、 ・臨床との共同研究を実施（継続）：大学院がん看護専門看護師コース4件、小児看護学1件 ・教員・指導者研修会開催：実習指導者53名、教員23名参加 ・実習指導者連絡会議の開催：実習指導者53名、教員18名参加 ・ブラッシュアップのためのセミナー開催：大学院精神看護：年3回、研究法の授業1回 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等の実施：ケアリング FD&CSD研究参加(3名)、看護協会「看護学校と職場の連絡会」参加(3名) ○目標実績 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施 5件（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施 2回 ・教員・指導者講習会実施数：1回 ・教員の臨床継続教育者数：1人	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		14

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定められた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 社会福祉学科 6.0倍以上 人間形成学科 7.5倍以上 看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上 (入学者数/入学定員) :大学院における充足率	1-1 【平成28年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組 ・高大接続改革を見据えた、学部入試の見直し作業開始 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業の継続 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」の実施 <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について取り組む。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を学内外で実施する。 ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)) :25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組 ・高大接続改革を見据えた、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定など英語の資格・検定試験の推薦入試での活用を決定した。 (看護学部・平成30年度入試から) ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行った。 ・「高大連携に関する情報交換会」秋のオープンキャンパスと同時開催 参加者:高校教諭7校7名 「高校生向けサマーセミナー」夏のオープンキャンパスと同時開催 人間社会学部講座「社会福祉について考える-障害者施設虐待の現状と課題-」 参加者:10名 看護学部講座「いのちとやしのワークショップ」参加者:22名 <大学院> ○大学院入試部会を7回開催し、現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・人間社会学研究科・看護学研究科とも、オープンキャンパスの相談コーナーで入試説明を行ったほか、コース毎の個別入試説明や入試説明会(関係団体の協力を得て学外で実施した広報活動も含む)を行った。 老年 個別入試説明3名(筑豊ブロック看護協会の協力を得て、募集案内チラシを看護の日に配布し、個別に説明した) 精神 入試説明会6名 科目等履修生募集等の説明8名 助産 入試説明会を学部生学年毎に開催、個別入試説明5名 ○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(7.0倍)、社福(6.1倍)、形成(6.7倍)、看護(5.6倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):19.5% ・大学院における充足率 85.2% ・出前講義数及びアンケート:回数24回、良好評価98.9%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・一般入試の志願倍率 人間形成学科の志願倍率が目標に達しなかったため、原因を分析し、平成29年度から広報活動を強化している。 ・大学院における充足率 大学院の充足率が目標に達しなかったため、平成29年度はさらに各種広報活動を行うこととした。	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※5 優秀な学生の確保の続き	2	2-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○広報活動等の改善の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入試広報手許資料」の改訂など、入試説明会での広報内容に係る改善を実施。高1,2年生をターゲットにした大規模イベント「夢ナビライブ2016」に参加。 ・新任部会員への研修及び「入試広報手許資料」の改訂により、高校訪問での説明内容の標準化を行った。「高大連携に関する情報交換会」で高校側が求める情報について意見聴取し、説明内容の改善や標準化に反映させた。 <p>○広報活動等の実施・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学紹介パンフレットの内容を改善し、最新版を発行した。 ・SNSを活用した受験生向け情報発信の試行へ向けて、「高大連携に関する情報交換会」で発信内容について意見聴取を実施した。 ・Facebookで、入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」を開始した。 ・スマートフォン用大学公式サイト(入試情報)を充実させた。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,711名、良好評価 96% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価100.0% ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価98.8% 	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.3 「高校訪問」</p> <p>No.4 「入試説明会」</p> <p>No.5 「出前講義」</p> <p>No.6 「オープンキャンパス」</p>	16	
				<p>【平成28年度計画】</p> <p>【積極的な広報活動】</p> <p>○広報活動等の改善の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校1,2年生向けPRの充実など、入試説明会の改善 ・高校訪問での説明内容の標準化 <p>○広報活動等の実施・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学紹介パンフレットの改善 ・SNSを活用した受験生向け情報発信の試行 ・スマートフォン用大学公式サイト(入試情報)の充実 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上 				
				<p>【積極的な広報活動】</p> <p>①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。</p> <p>②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。</p> <p>③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。</p> <p>④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。</p> <p>⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上 				

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施：表彰の実施(年1回)	1-1【平成28年度計画】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと教員の情報の共有を図る。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1年次から2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過についてキャリア形成支援を実施する。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施：表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 ：利用者実数：150人以上、延べ900件以上	2	【平成28年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターと教員の情報共有として、進路・生活支援部会にオブザーバーとしてカウンセラーが出席した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の実施については、1、2年次はキャリア形成支援講座ⅠⅡⅢを、3年次は夏季インターンシップを実施した。 ○夏季インターンシップに参加した14名のうち3名がプレ・インターンシップ履修者である。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定については、プレ・インターンシップで実施した。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などへのキャリア形成支援として、卒業生がキャリアサポートセンター相談室を活用できるようにした。 ○卒業時に優秀学生の表彰を行った。GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援として、平成27年度後期・平成28年度前期のGPAが2.0以下の学生を特定し、公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科、看護学部看護学科で面接指導を行った。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の実施については、「プレ・インターンシップ」単位取得者14名が中長期・実践型インターンシップに取り組み、課題を検討した。 ○目標実績 ・夏季インターンシップ参加14名のアンケート結果 ：良好評価 100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 93.1% ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率99.2% ・表彰制度の実施：卒業時に優秀学生の表彰を実施 ・キャリアサポートセンター利用数：利用者実数：187人、延べ829件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※6 学生支援の充実の続き	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 ：1回／年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催：対面会議 2回以上／年	2-1【平成28年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催：1回／年、 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 ：対面会議年2回	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の体制づくりとして、10大学から15人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行っている。本学からは2名の教員が担当している。 ○学生コンソーシアム会議を、7回実施した。 ○学生フェスティバルは、福岡大学にて大学祭「七隈祭」と同日開催。参加者総数232名。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催：1回、学生参加数 県立大学から21名 ・学生コンソーシアム会議の開催：対面会議 7回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		18

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※6 学生支援の充実の続き	<p>3【大学院生支援の充実】</p> <p>①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。</p> <p>具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。</p> <p>○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年</p>	<p>3-1【平成28年度計画】</p> <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>○大学院生への相談体制の具体策の検討</p> <p><心理臨床専攻> ・H27年度実施したアンケートの結果を踏まえ改善点を検討する。</p> <p><社会福祉専攻> ・今年度から、土日祝日開講を開始する。これに伴い、各講義科目の開講日程等について学生のニーズや希望が反映できる体制を構築していく。</p> <p><看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。</p> <p>○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた検討を行う。</p> <p>○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件以上</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>○大学院生への相談体制の具体策の検討 FD部会と連携して、両研究科学生へのアンケート調査を実施した。</p> <p><心理臨床専攻> ・アンケート結果を踏まえ、修士論文作成に置いて相談指導体制を強化するために、来年度より副指導教員を設置することを決定した。</p> <p><社会福祉専攻> ・各学生と履修相談を行い、前期5科目、後期3科目について土日祝日開講を実施した。</p> <p><看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)については、大学院生室の机やロッカーの配置の整備、印刷機の増設、最新の統計解析ソフトの整備、機器に関する連絡体制の整備、院生の個別問題や学習における相談体制を整え、支援を実施した。</p> <p>○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた検討を行った。</p> <p>○目標実績 ・助成金の実施状況 :1件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		19

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率：70%以上(平成26年度以降)	1-1【平成28年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会の実施 ○コース開設数調査の実施 ○学生の利用率調査の実施 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100コース ・学生の利用率：70%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会を2回実施した。(参加者延べ41名) ○コース開設数調査の実施 前期コース開設数 54コース (人間社会学部 30、看護学部 24) 後期コース開設数 61コース (人間社会学部 36、看護学部 25) 前期・後期合計 115コース (人間社会学部 66、看護学部 49) ○学生の利用率調査の実施 前期利用率 両学部平均 88.3% (人間社会学部 77.0%、看護学部 99.5%) 後期利用率 両学部平均 84.8% (人間社会学部 71.0%、看護学部 98.7%) 前期・後期利用率 両学部平均 86.5% (人間社会学部 74.0%、看護学部 99.1%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数：115コース ・学生の利用率：86.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※7 学習環境の充実の続き	2【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 : 参加した社会人のアンケート調査における 良好評価 70%以上	2-1【平成28年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ・e-ラーニングをより良く活用するための検討 ○研究生制度の見直し ○達成目標 ・e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数、2件以上 ・Bizコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上70%	1	【平成28年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施(アドバンス生理学・病態生理学、終末期高齢者看護論)レポートの学生間でのWEB公開を人間社会学研究科の4科目で実施した。 ・e-ラーニングをより良く活用するための検討を行った。 ○研究生制度の見直し 福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」とあるが、現段階では制度の利用がない。そこで、看護学研究科では、研究生の資格の基準を変更することについて検討した。 ○目標実績 ・e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック:6件 ・Bizコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上66.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※7 学習環境の充実の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	3-1【平成28年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニング commons の利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年15件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	1	【平成28年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 CiNiiに加えてJAIRO Cloudへの本学機関リポジトリの登録を決定した ○ラーニング commons の利用とその促進 図書館本館にラーニング commons のスペースを確保するための案を作成した ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館を実施している月の利用者数は目標値を上回った ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数 43件 ・ラーニング commons 利用者数 : 月311名 ・開館延長時間内の利用者数 : 月322名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.11 「図書館」	22

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
8人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目的に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度までに作成	1-1【平成28年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進める。 ・卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報プログラムを開設する。また、他の3全学横断型教育プログラム(援助力養成、国際交流、キャリア形成支援)の充実を図る。	2	【平成28年度の実施状況】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進めた。 ・本年度、卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報教育プログラムを開設するとともに、本プログラム強化のために教員を採用した。キャリア形成支援プログラムを平成30年度より卒論にいたるプログラムとするため、カリキュラムを作成するとともに本プログラムのための教員を採用した。国際交流プログラムでは、科目配置等の見直し等により4年間で卒業可能な留学コースを設定し、援助力養成プログラムではカリキュラム充実のために新たに「子供学習支援論」を開設した。	A	【高く評価する点】 ○保健福祉情報教育プログラム強化のための担当教員を追加採用し、キャリア形成支援プログラムの卒論に至るカリキュラム作成に向けて中核教員を前倒しで採用し、改革を進めることができた。 【実施(達成)できなかった点】		23

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成28年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。	1	【平成28年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・博士課程構築の前提となる大学院修士課程の現状について、四役会等で議論をおこなった。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		ウエイト総計	28年度 26			項目数計		28年度 24

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成28年度)

- ①大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。
「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」
- ②学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。
- ③学生の主体的な勉学・研究をさらに促進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。

年度計画項目別評価

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

項目	実施事項	平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数 3件以上/年	1-1【平成28年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトについて検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校(大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部会と連携して検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、シンポジウムの29年度開催に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :1回	2	【平成28年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトとして、研究推進部において地域教育課題、医療福祉情報に関する2つの重点領域研究部門のプロジェクトを立ち上げた。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について、重点領域研究部門のプロジェクトを中心とした中間報告会を平成29年12月に実施することを決定。 ○産学官連携の積極的に推進については、附属研究所の改組に伴い、研究推進部において産学官連携の取り組み内容の見直し及び整理を行った。また、本学教職員に向け保健医療福祉領域に関連する広報を行った(国際医療福祉機器展イベント・セミナー、田川市在宅医療推進フォーラム、福岡女子大学産学官技術交流会等)。 ○協定校との研究者や学生、院生の交流促進について、国際交流推進部会と連携して協定校の学生、院生の受け入れと派遣を行った(受け入れ8名、派遣3名)。 ○保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、平成29年4月にドイツから講師を招き国際シンポジウムを共催で実施することを決定。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数:3件/年 ・産学官連携契約件数:2件 ・知的財産セミナーの開催:1回開催 ・メールマガジンの発行:12回 ・研究シーズ発表会への参加:3名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間17件 看護学部年間 30件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 8件 看護学部年間 1件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数:3件 招聘件数:2件 ・提携協定校との共同研究応募件数:3件 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会:翌年度実施	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募／獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額：年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率：80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)	2-1【平成28年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額：年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率：80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)	1	【平成28年度の実施状況】 ○科研費申請等事務繁忙期に非常勤職員を専従させ事務局体制の強化・充実を図り、公募状況を適宜ホームページに掲載するとともに教員全員にメールを送信し周知を行った。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度実施。 ・不採択となったA評価だった教員(申請者)に対し助成した。 ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 ○目標に対する実績 ・科研費獲得件数・金額 35件・4,461万円 ・科研費応募率：95.9%(既に科研費による研究課題をもっている教員除く)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.19 「研究」	26
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	3-1【平成28年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回以上	1	【平成28年度の実施状況】 ○厚生科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を新規に整備し、外部有識者を入れた審査をおこなった。 ○動物実験に関する委員会を2回開催した。また実施ガイドラインに基づいた取組については引き続き会議にて検討をおこなった。 ○若手研究者に対するセミナーを開催した。 ○目標実績 ・学外での研修参加：年1人 ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回	A	【高く評価する点】 利益相反に関する審査部会に大学外部から委員を加えて審議をおこなった。 【実施(達成)できなかった点】		27
		ウェイト総計	28年度 4			項目数計		28年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成28年度)

①附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。
新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。

年度計画項目別評価

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
----------------	---

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	1-1【平成28年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施する。 ○国際交流センターの事業推進 ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・協定締結校である大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学を国際交流推進部会員が訪問し、それぞれ文化・学術交流の推進について議論した。 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・田川市の料理教室に中国人留学生3名、田川市立後藤寺小学校の文化交流プログラムに韓国人留学生4名、田川市立伊田小学校の英語授業に中国人留学生が3名参加した。 ○国際交流センターの事業推進については、「地域・国際交流コーディネーター」と「国際交流チューター」を中心に、センター内の整備を始め、各種情報の積極的発信をおこなった。 ○目標実績 ・教員交流数: 延べ25名/年 ・文化交流プログラムの実施: 4回/年	A	【高く評価する点】 国際交流センターに新たに「地域・国際交流コーディネーター(職員として採用)」と「国際交流チューター(長期留学からの帰国した学生を委嘱)」を配置し、国際交流の推進にあたった。留学生を交えた文化交流プログラムは田川市内の学校からのニーズが高く、目標を超えて4回実施できた。 【実施(達成)できなかった点】		28

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実：短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援：派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1【平成28年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・プログラムの継続的实施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：20名以上(私費留学生含む)	1	【平成28年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修については、コストを抑え、保健福祉系の特性を生かしたプログラムの再検討を行った。 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)を実施した。(学生16名参加) ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施した(短期研修プログラム実施)。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムを実施した(大邱韓医大学10名受け入れ) ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供した。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・威徳大学、大邱韓医大学への短期研修プログラムを実施した(学生10名参加)。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、部会にて課題を検討した。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会 2回 ・受入留学生数 22名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		29

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳：平成27年度までに作成	3-1【平成28年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討 ○英文翻訳作業の検討・実施 ○達成目標 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催	1	【平成28年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵・保管する山本作兵衛コレクションの保存・活用については、附属研究所の改組に伴い、今後の保存のあり方について、見直しと整理を行った。 ○英文翻訳作業の検討・実施については、附属研究所の改組に伴い、新たな事業に移行するため計画の終了を決定した。作業部会は今年度をもって終了となった。 ○目標実績 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳：平成27年度に作業を終了 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催：40回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1-1	1	【平成28年度の実施状況】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進に関する取り組みについて確認を行った。 ○田川市郡との包括連携事業の推進については、福岡県立大学・田川地域包括連携推進協議会の開催について検討するため、田川市と協議を行った。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムに関し、県立三大学連携県民公開講座を開催(10月:1件、11月:3件、12月:1件)。 ○目標実績 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :5企画/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「産学官連携」	31

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業開始 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(年間6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 「お父さん・お母さんの学習室」:23回開催、参加者のべ49名 「足と靴の相談室」:随時応談、来談者のべ14名 「おもちゃとしゃかん・たがわ」:32回開館、来館者のべ198名 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業 市民ボランティアの愛称を「アドボチャイルド」に決定 アドボチャイルドの運営などに関する打ち合わせ会:5回実施 アドボチャイルド主催の講演会:1回開催「障害者にとって自立とは何か」(参加者:市民6名、学生30名) 地域啓発のための講演会:3回開催 香春町子ども食堂の運営に協力:研修会5回、子ども食堂4回実施 「アンビシャス広場」親子広場:17回実施、参加者52組133名の親子 学生クラブ:親子広場の活動支援(環境づくり)通年随時。 フィールドワーク1回、意見交流会10回 障害児のきょうだいの会4回実施 「福祉用具研究会」:9回開催、参加者のべ218名 「筑豊市民大学」への支援:講師選定、プログラム作成協力 ○目標実績 ・福祉用具研究会の開催:9回 ・参加者・相談者アンケート:良好評価100% (「お父さん・お母さんの学習室」修了者アンケート)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-2 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○健康教室の実施・修正 健康教室(マザークラス田川) 6回実施、62名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、176名参加 健康大使への継続教育 1回実施、18名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、278名参加 健康教室(ヒーリング) 7回実施、45名参加 「癒やしの空間」の管理運営 3回実施、6名参加 食によるヒーリングパワー 1回、14名参加 ○福祉・教育・健康の相談事業の検討・実施 ○達成目標 ・健康教室等:20件 ・参加者数:延べ 800名 ・参加者アンケート:良好評価 75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○健康教室の実施・修正 健康教室(マザークラス田川) 6回実施、62名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、176名参加 健康大使への継続教育 1回実施、18名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、278名参加 健康教室(ヒーリング) 7回実施、45名参加 「癒やしの空間」の管理運営 3回実施、6名参加 食によるヒーリングパワー 1回、14名参加 ○福祉・教育・健康の相談事業の検討 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 3回実施、13名参加 性の健康に関する事業 19回実施、369名参加 エンド・オブ・ライフケア教育 3回実施(田川市)、340名参加 ○目標実績 ・健康教室等:60件 ・参加者数:延べ 1,321名 ・参加者アンケート:良好評価 99.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-3 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、子供援助力支援機構(仮称)のもと推進する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数:140名以上 ・教員対象研修回数:10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:20名以上 ・登校開始率:37% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数270名、延べ2,571名が活動した。 ○教員対象研修事業は、67回の研修を4,329名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数21名、延べ1,417名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、月2回実施している運営会議の中で課題を検討している。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している5箇所(箇所)に学生を派遣した。派遣学生数は77人、派遣延べ回数は1,430回であった。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数:270名 ・教員対象研修回数:67回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:21名 ・登校開始率:66.7%	A	【高く評価する点】 ○サポーター派遣事業では実人数が270名、教員対象研修が67回、キャンパス・スクール事業においては登校開始率が66.7%と計画を大きく上回る取り組みとなった。 【実施(達成)できなかった点】	No.38 「不登校・ひきこもりサポートセンター」	34

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-4 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、子供援助力支援機構(仮称)のもと推進する。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 年2回	1	【平成28年度の実施状況】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、外部団体の登録件数は174件となり、学生とのコーディネートにより延べ477人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援については、延べ807人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。学内のボランティアサークルとの懇談会を2回実施し、11グループからの相談に対応した。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上については、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会を2回実施した。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している5箇所(仮称)に学生を派遣した。派遣学生数は77人、派遣延べ回数は1,430回であった。 ○目標実績 ・外部団体・機関登録件数 174件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 477人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 2回	A	【高く評価する点】 外部団体・機関登録数およびコーディネートにより活動を行った学生数について、計画を大きく上回る取り組みができた。 また、土曜の風の学生派遣延べ回数について、当初計画の500回を大きく上回る1,430回の活動ができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.16 「学生サークル」	35

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 :年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	2-1【平成28年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 ○教育研修活動の実施 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育の実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・看護師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・助産師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・保健師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名 ・看護技術追跡調査実施 :年間1回	1	【平成28年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 「特別支援教育・スキルアッププログラム」:5回実施、参加者のべ113名 「ペアレントトレーニングのスキルアップ講座(直方市)」:5回開催、参加者のべ214名 ○教育研修活動の実施 「福祉用具体験講習2016」:1回開催、参加者14名 「筑豊英語教員フォーラム」:22回開催、参加者のべ330名 「山本作兵衛さんをく読む>会」への支援:40回開催 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 リカレントセミナー「ドイツの児童福祉と児童養護施設の取組み」 :参加者30名(うち卒業生2名) リカレントセミナー「地域包括支援体制を考えるー変化を生み出すソーシャルアクションー」:参加者105名(うち卒業生41名) ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 看護職へのリカレント教育 1回実施(看護師11名、助産師43名) 保健師リカレント教育 3回実施(一般12名、看護師11名、保健師42名、うち卒業生17名) 地域住民の感染症予防スキルアップ事業 11回実施(一般175名、保健師1名) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 ・看護師対象のリカレント教育 2事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 1事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 2事業実施 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 2事業/年 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数:人間社会学部・年間43名 看護学部・年間17名 ・看護技術追跡調査実施 福岡ヘルシー・エイジング研究会 2回実施(一般9名、看護師33名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	3-1【平成28年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討 ○公開講座の実施 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	1	【平成28年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとして、不登校・ひきこもりサポートセンターと連携し、南京師範大学の学生の受け入れを行った(6名)。 ○公開講座について、3講座を実施した。 ○世界の記憶「山本作兵衛の日記等」については、ユネスコ基準に則り、適切な保存・管理をおこなった。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織について、関連研究施設の視察を行った。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :5回/年 ・公開講座の実施回数 :3回/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	4 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率:(志願者数/募集人員):1.5倍以上 ・認定合格率:90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催:年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会:年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催:年1回以上 参加者アンケート:良好評価75%以上 ・健康教室:年3回以上開催 参加者アンケート:良好評価75%以上	4-1 【平成28年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ○糖尿病健康教育活動の実施 ○積極的な広報活動 ○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 1.0倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 20名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義)開催回数3回以上、参加者アンケート 良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) 福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催を6回(参加者合計:31名) フォローアップ研修会1回(参加者数24名)、リカレントセミナー1回(参加者数249名) ○糖尿病健康教育活動の実施 地域住民を対象に、糖尿病療養の相談の実施(1回、32名) コメディカルスタッフを対象とし糖尿病教育に関する講義を実施(宮崎市内、130名) 看護師を対象とした糖尿病教育に関する講義を実施(福岡市内、100名) ○積極的な広報活動 入学式・次年度入試情報についてのホームページ更新、セミナー参加募集についてホームページによる健康教育活動の告知・募集、セミナー参加者に入試試験募集案内のチラシ配布を実施した。 ○目標実績 ・入学試験志願倍率 2.2倍 ・認定審査合格率 100%(10名) ・患者教育研究会延べ参加者数 49名 ・セミナー参加者数 249名、参加者アンケート 良好評価98.3% ・糖尿病予防教育(出前講義)等の開催回数 3回、参加者アンケート 良好評価92%	A	【高く評価する点】 オープンキャンパスにおいて受験希望者向けの個別相談・説明会を実施した結果、志願倍率2.2倍、収容定員(18名)の充足率106%を達成した。 【実施(達成)できなかった点】		38
		ウェイト総計	28年度 11			項目数計		28年度 11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

社会貢献に関する特記事項(平成28年度)

- ①「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。
- ②長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。
- ③学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。
- ④新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。
- ⑤福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣をおこなった。

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	2-1【平成28年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保する。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を準備する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	1	【平成28年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○ベストティーチャー1名を選定した。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、持ちコマ(担当科目)上限数の見直し等の改革方を検討するために、現状を把握した。 ○目標実績 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む):1名 ・研究費に占める研究奨励金の割合:30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.37 「学術研究経費予算」	40

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 運営体制の改善の続き	3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1【平成28年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○平成27年度分の教員個人業績評価を実施した。 ・評価対象者 88名(うち評価猶予者 3名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41
	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1【平成28年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○各個別マニュアルの必要に応じた修正	1	【平成28年度の実施状況】 ○危機管理基本マニュアル(H28.2.17制定)の周知・徹底を行った。 ※個別マニュアルの修正は不要であった。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		42
		ウエイト総計	28年度 4			項目数計		28年度 4

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

業務運営に関する特記事項(平成28年度)

① …

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成28年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 ○急を要する物品以外は、集中発注システムを活用し一括発注に努めた。 ○旅費関係事務処理に関するアウトソーシングについて検討した。 ○外灯(駐車場、通路 66基)をLED照明化さらに既存の屋内蛍光灯が故障した際、随時LED電灯への切替を行った。また、部局長会議等通じて全職員に節電を呼びかけた。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件(外灯のLED照明化)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44
	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1【平成28年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成28年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H28年度新規事業分を除く)	1	【平成28年度の実施状況】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員の採用に努めた。 ○週休日の振替の徹底。 ○目標実績 ・大幅に減少した平成27年度を、更に減少させることができた。(△1%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」	45
		ウェイト総計	28年度 4			項目数計		28年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成28年度)

- ①正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。
- ②「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。
- ③アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 6 評価及び 情報公開</p>	<p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」</p> <p>(1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p>
---------------------------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 自己点 検・評価の効 率的な実施 自己点検・ 評価及び各 種評価結果 を大学運営 に反映し、改 善を図る。	1 【自己点検・評価の見直し と実施】 ①中期目標の実現を目指 して、計画的に年度計画を 立て、実施し、自己評価す る。県評価委員会の評価 結果を大学運営に反映さ せる。 ②各教員の教育・研究・社 会貢献の実績調査を実施 し、教育・研究・社会貢献 一覧を作成し、HPIに掲載 する。 ③次期認証評価に向け て、必要なデータを蓄積す る仕組みを検討し、認証評 価の準備を行う。	1-1 【平成28年度計画】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に 反映させる。 ○教員の教育・研究・社会貢献報告書を作 成し、HPIに掲載する。 ○大学評価・学位授与機構による「大学機 関別認証評価」を受審する。 ・認証評価W.G.で自己点検評価書を作成 し、大学評価・学位授与機構に6月末に 提出する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○県評価委員会の評価結果について、大学改革セミナーを開催し、全教職員 に周知した。改善すべき点は部局長会議、改革推進委員会等で審議し、 大学運営に反映させた。 ○教員の平成28年度教育・研究・社会貢献の実績調査を平成29年3月に実施 し、4月に各教員の教育・研究・社会貢献実績を本学HPIに掲載した。 ○大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審した。 ・認証評価W.G.で自己点検評価書を作成し、大学改革支援・学位授与機構に 提出した。訪問調査を経て、評価結果が確定し、本学が、「大学評価基準を 満たしている」と認定された。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		46

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1【平成28年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの更新を定期的にチェックするとともに、トップページのフラッシュを適宜変えていく ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○ホームページのリニューアルし見やすくするとともに、スマートフォンでの閲覧も可能とした。 ○ホームページのリニューアルにより掲載情報の充実を図った。 ○ホームページリニューアルと合わせて、1月よりスタートした、フェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図った。 ○情報発信体制の整備 ・大学発のイベント等について、積極的に新聞社等へ情報提供した。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の発行 :2回 ・出前講座及び実施後アンケート :24回開催、良好評価98.9% ・教育プログラム紹介の広報活動 4件 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版 12件、全国版 2件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」	47
		ウェイト総計	28年度 2			項目数計		28年度 2

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成28年度)

① …

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
 なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項	関連する通し番号
①大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。 「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」	15
②学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。	22
③学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。	22
④附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。 新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。	25
⑤「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。	25、28
⑥長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。	28
⑦学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。	28
⑧新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。	28
⑨福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣をおこなった。	34
⑩正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。	44
⑪「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。	44
⑫アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを、グループワーク時に簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。	44

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			-
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
費用の部	1,859	1,890	31		
経常費用	1,859	1,887	28		
業務費	1,648	1,652	4		
教育研究経費	333	340	7		
受託研究費等	16	1	▲ 15		
人件費	1,299	1,310	11		
一般管理経費	210	231	21		
(減価償却費 再掲)	(89)	(91)	▲ 2		
財務費用	-	1	1		
臨時損失	-	3	0		
収益の部	1,859	1,855	▲ 4		
経常収益	1,859	1,851	▲ 8		
運営費交付金収益	1,000	1,009	9		
授業料収益	578	576	▲ 2		
入学金収益	112	116	4		
検定料収益	25	23	▲ 2		
その他業務収益	-	0	0		
受託研究等収益	-	0	0		
受託事業等収益	-	0	-		
補助金等収益	17	21	4		
寄付金収益	0	1	0		
資産見返物品受贈額戻入	43	44	1		
資産見返運営費交付金等戻入	4	4	0		
資産見返寄附金戻入	1	1	0		
資産見返補助金戻入	13	12	▲ 1		
資産見返補償金戻入	0	0	0		
財務収益	0	0	0		
雑益	35	37	2		
臨時利益	0	3	3		
純利益	0	▲ 35	▲ 35		
前中期目標期間繰越積立金取崩額	24	2	▲ 22		
目的積立金取崩額	-	33	33		
総利益	0	0	0		

中期計画	年度計画			自己評価	
	計画	実績			
2. 資金計画予算	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
	資金支出	2,021	2,043	22	
	業務活動による支出	1,758	1,768	10	
	投資活動による支出	11	28	17	
	財務活動による支出	26	28	2	
	翌年度への繰越金	225	217	▲ 8	
	資金収入	2,021	2,043	22	
	業務活動による収入	1,770	1,780	10	
	運営費交付金による収入	1,000	1,011	11	
	授業料等による収入	716	706	▲ 10	
	受託研究等による収入	-	1	0	
	補助金等による収入	17	21	4	
	寄附金等による収入	0	1	1	
	その他収入	35	38	3	
	投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-		
前中期目標期間繰越積立金取崩額	24	36	12		
前年度からの繰越金	225	225	0		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし	-	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし		該当なし	-	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。		該当なし	-	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし		該当なし	-	